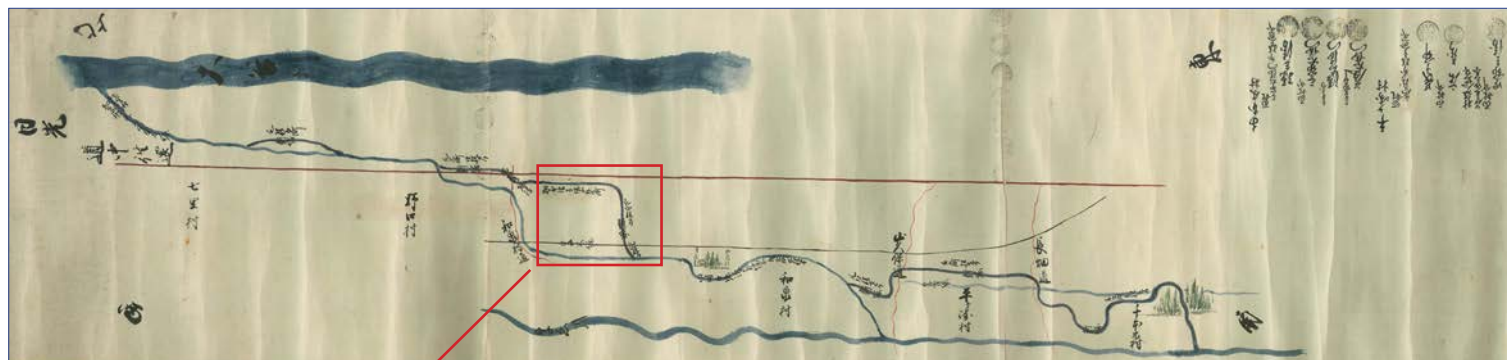


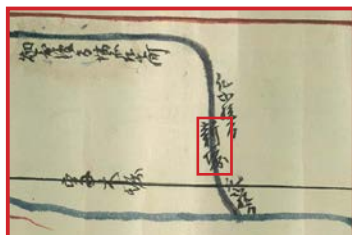
知ってる？二宮堀

～金次郎と地域の人びとがつくった用水路～

日光市二宮尊徳記念館



今市小学校旧蔵文書（当館蔵）



この絵図は、大谷川から取水した水が和泉村・平ヶ崎村・千本木村を通って田川に流れ込んでいる様子が描かれています。絵図の中には、「新堀」と書かれているところがあります。この「新堀」と書かれている部分が、嘉永7年（1854）につくられた部分です。よく見ると青と濃い青の2色で用水路が描き分けられています。濃い青が「新堀」です。この絵図からは、金次郎たちの工事によりできた用水路と金次郎たちが来る以前からあった用水路の場所がわかります。

知ってる？二宮堀

二宮堀とは
にのみやぼり

江戸時代の終わり頃に活躍した二宮金次郎や息子の弥太郎らが携わった用水路を「二宮堀」と呼んでいます。また、「二宮堀」は、現在の日光市域で二宮金次郎親子の事績を目で見て知ることができるものの一つです。その中には、現在も用水路として使われているものもあります。

今回は、「二宮堀」の中から和泉・平ヶ崎・千本木の「三ヶ村用水」を取り上げます。「三ヶ村用水」は、今から165年前の嘉永7年（1854）につくられました。「三ヶ村用水」は、日光神領の報徳仕法の中で最初の大工事であり、金次郎らの報徳仕法の信頼を高めたものとして位置づけられています。

「二宮堀ってなんのために、どんなふうにつくられたの？」知っているようで知らない「二宮堀」について掘り下げてご紹介します。

「宮堀」がつくられました。



↑今市高等学校付近



↑田川放水口（千本木地内）

※現在は「五ヶ村用水」と呼ばれている。



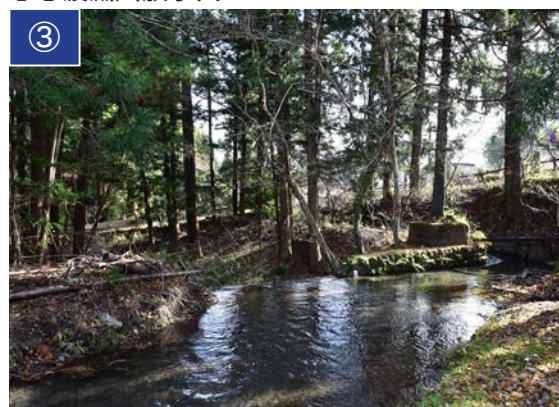
↑今市文化会館西側付近



↑大谷川取水口



↑志渡淵川放水口



↑堂目喜堰 (野口地内)



「三ヶ村用水」ができる前

日光神領は、田が少なく畑が多い土地でした。田は畑に比べ生産高が多いため、日光神領の人々は畑を田に変える「畑田成」^{はたなり}を望んでいました。畑田成には用水路が必要となります。そのため、金次郎らが日光に来る以前からすでに「三ヶ村用水」の元となった用水路はつくられていました。しかしそれは、和泉村までしか流れていない小規模なものでした。

工事着工までの準備（下流域との調整）

「三ヶ村用水」に反対する村々

弥太郎は、病気の金次郎に代わり和泉・平ヶ崎・千本木三ヶ村の用水路の拡張と和泉村から先の新設を日光奉行所から依頼されます。しかし、工事はなかなか進みませんでした。大谷川下流の村が、工事の反対をしたためです。「自分たちが使う大谷川の水が減ってしまう」と下流の村は心配していました。この問題は、日光奉行所の役人が反対している村を三日三晩かけて調整したことで解決しました。

水神碑碑文

嘉永七甲寅歳六月十四日	
日光御目代	町田孫四郎
吟味役	小野善助
御收納方	野中金平
全	武木鉄蔵
日光ヨリ田用水	和泉村
発	石原源吾
平ヶ崎村	手塚庄右衛門
千本木村	吉原仙吉
起	栗城照敬書（印）



↑水神碑複製（当館蔵）

この水神碑は、下流 12ヶ村との調整が済んだことを記念して建てられました。調整に当たった日光奉行所の小野善助の他、三ヶ村の「世話人」などの名前が刻まれています。6月14日という日付は、小野善助たちが12ヶ村の調整を開始した日付です。現在水神碑は、「二宮堀付水神碑」として日光市指定文化財に登録され、原町にあります。

町谷渡辺家文書【町谷村名主文書】（当館蔵）

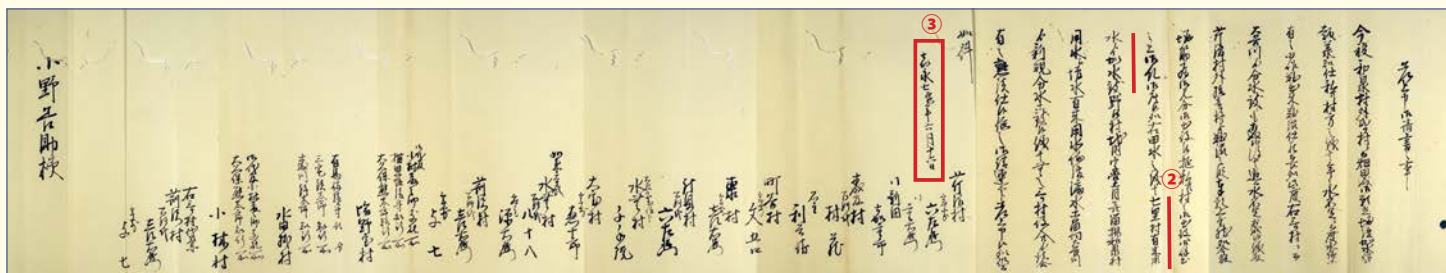
上：大谷川下流に位置する芹沼・芹沼新田・町谷・轟・針貝・大室・森友・水無・荊沢・塩野室・沓掛・小林の12ヶ村が「三ヶ村用水」の工事に反対していることが書かれています。普段から水不足により難渋していること、大谷川から新たな分水に反対することについて書かれています。

下：「三ヶ村用水」は大谷川から新たに取水はせず、七里村に元からある用水から水を加えること、12ヶ村が納得したことが書かれています。6月16日という日付は、三日三晩の調整が終わった日付です。



①大谷川より分水増之儀、無御座候様

大谷川から（三ヶ村へ）分水して増やすことは、無いように（してください。）



③嘉永七寅年六月十六日

小野善助らによる三日三晩の説得直後の日付。

②七里村有来用水より加水致

七里村に元からある用水より（三ヶ村用水）に水を加える。



工事の工程と現場の実態

「三ヶ村用水」の工事内容

「三ヶ村用水」は、嘉永7年（1854）閏7月5日から閏7月27日まで、3日間の休暇を入れて20日間で工事が終了しています。「三ヶ村用水」は、野口村の堂目喜堰から千本木村の田川放水口までの約6.3km（3478.5間）あります。工事には、「破畑人足^{はばたにんそく}」といわれる土木工事を専門にする人々のほかに、三ヶ村や野口村の村人たちも人足として多数参加しました。20日間の工事で延べ1046人（実数としては150人前後）が参加しました。

まずは、和泉村まで元々あった水路の拡張・新設を行い、その後、平ヶ崎村・千本木村に新しい用水路をつくりました。工事にかかった費用は、48両余です。内訳は人足たちの賃金に36両余、道具代や食料代に11両余かかりました。これらの費用は金次郎の報徳役所が全額を負担しました。

三ヶ村用水の関係年表

西暦（和暦）	日付	三ヶ村用水関係の主な出来事
1825（文政8） 1854（嘉永7）	3月26日	・和泉村まで用水路がつくられ、畑田成が行なわれる。 ・弥太郎ら東郷陣屋から日光に到着。（この時すでに三ヶ村は、日光奉行所に畑田成を願ひ出ており、弥太郎らが引き受ける）
	4月3日	・弥太郎らによる普請場所の見分が行なわれる。
	同月7日	・弥太郎らによる普請場所の見分の後、三ヶ村村役人たちが弥太郎らへ「一同打寄」、工事の取り掛かりを申し立てる。
	同月12日	・伊東発身と日光奉行所支配吟味役小野善助が三ヶ村用水について相談する。伊東は、「故障」（差し障り、異議）があるため普請をしないという立場を取る。
	同月14日	・弥太郎ら栗山の西川村開発のため今市を出発（5月26日）。
	同月14日	・三ヶ村村役人が用水路普請について「頻りに歎願」する。伊東は弥太郎不在を理由に引き取らせる。
	同月27日	・平ヶ崎村世話人・千本木村役人が用水路について申し立てる。
	5月10日	・三ヶ村世話人が「早急」の普請を願ひ出る。
	同月14日	・芹沼村村役人が12ヶ村の代表として、三ヶ村用水について「故障」があるとして、普請反対の願書を提出する（奉行所へは5月12日に提出）。
	同月16日	・伊東発身と小野善助が面会する。
	同月18日	・三ヶ村村役人に下流の村々が反対していることを伝える。
	同月26日	・伊東発身は、富田久助宛の書簡にて大谷川の水ではなく七里・野口の「落こぼれ之水」を利用することを提案する。
	6月14日	・三ヶ村村役人から普請の願書が提出されるが、「故障」があるため差し戻す。
	同月18日	・小野善助ら日光奉行所による普請場所の見分が行なわれる。（下流域の村々と三日三晩かけて調整を行なう）
	同月25日	・調整がなったため、三ヶ村世話人が普請を願ひ出る。
	同月25日	・三ヶ村村役人・世話人は、「故障」がなくなつたため普請を願ひ出る。久保田周助は、「御用繁」のためすぐには取り掛かれないことを伝える。
	同月30日	・三ヶ村村役人が普請について「頻りに」申し立てる。
	7月2日	・三ヶ村から、すぐに普請に取り掛かれなければ、自力での普請と140両を借りたい旨の願書が提出される。
	同月11日	・芹沼村役人と三ヶ村村役人が来る。
	同月13日	・芹沼村・荊沢村村役人が証文を持参する。
	同月17日	・三ヶ村村役人から拝借金の件がどうなったか問い合わせがある。弥太郎らは、先日提出された願書を取り下げた上で、「故障」が無くなれば、破畑人足を手配して工事に取り掛かる旨を伝える。
	同月20日	・三ヶ村が、自力での普請をしたい旨を伝える。弥太郎らは、「勝手次第」にすべしと伝える。
	同月24日	・弥太郎、富田久助は、日光奉行所へ赴く。
	同月25日	・弥太郎らは小野善助との協議の結果、三ヶ村用水は「出捨」（報徳役所が全額負担）で普請を行なう方針を決める。
	閏7月1日	・三ヶ村村役人に普請は「出捨」で行なう旨が伝えられる。
	閏7月5日	・弥太郎らによる普請場所の再見分が行われる。
1858（安政5）	5月12日	・三ヶ村用水普請が開始される。（閏7月27日、7月22日には完工） ・三ヶ村用水の拡張が行われる。（5月19日）野口村も含めて「四ヶ村用水」と呼ばれるようになる。

工事にかかわった人々

「三ヶ村用水」の工事には、破
畑人足が62人（延べ627人）参加
しました。また工事に参加した
地域の人たちの内訳は次の通り
です。

野口村2人（延べ14人）、和
泉村29人（延べ141人）、平ヶ崎村
32人（延べ156.5人）、千本木村28人
（延べ147.5人）。平ヶ崎村と千本木
村の参加者は、それぞれの村に
住む男性（子供とお年寄りを除
く）の半数以上です。水神碑に
名前が刻まれている三ヶ村の「世
話人」も数多く参加しています。
和泉の源吾（源五右衛門）が8日、
平ヶ崎の庄右衛門が9日、千本
木の仙吉が12日です。いずれも
各村でトップクラスの参加日数
です。「三ヶ村用水」は、破畑人
足だけでなく地域の人々も工
事に大きくかかわっていました。

門弟たちの出欠カレンダー

主に二宮弥太郎、中村藩出身の門弟
富田久助（高慶）、伊東発身、荒専八の4人が
中心となり指導をしています。荒専八は、測
量技術に長けていたので人足に直接技術指導
をしていたと考えられます。また富田久助は
8日から風邪を引いたため休みです。

7月							8月						
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30							1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30						
7月							8月						
閏7月							閏7月						
小月							小月						
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八
8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八
22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八	弥太郎 久助 発身 専八

人足たちの出欠カレンダー

人足の延べ人数の内訳です。9日は朝の段階
で雨が降っていたため、破畑人足が休暇を願
い出で認められています。また三ヶ村の村人は基
本的に毎日同数の人足を出しています。18日は
全体的に休みにになり、破畑人足の賃金と励まし
のための酒代が支給されています。

7月							8月						
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30							1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30						
7月							8月						
閏7月							閏7月						
小月							小月						
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人
8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人
22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人	破畑人足 44人 平ヶ崎村 3人 野口村 0人 千本木村 3人 和泉村 3人 合計 53人



7月														嘉永7年(1854)														8月																																																																																			
														閏7月																																																																																																	
														小月																																																																																																	
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30														1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30														1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30																																																																																			
1 現場の確認														2 石運び														3 石運び														4 庄右衛門家前(野口村)														5 水のせき止め														6 太郎兵衛家前(野口村)														7 野口村と和泉村の境																											
8 源五右衛門家前(和泉村)														9 月蔵寺脇(和泉村)														10 忠右衛門の杉林(和泉村)														11 破畑人足に酒代と資金支給														12 和泉村と平ヶ崎村の境														13 今市宿の後ろ(平ヶ崎村)														14 千本木村内(千本木村)																											
15 月蔵寺脇(和泉村)														16 忠右衛門の杉林(和泉村)														17 和泉村と平ヶ崎村の境														18 休工														19 今市宿の後ろ(平ヶ崎村)														20 千本木村内(千本木村)														21 田川の落ち口(千本木村)																											
22 奥院確認(夕方まで) 全員参加の打ち上げ														23 門前による確認 破畑人足に義栗が振る舞われる														24 休工														25 日光奉行所による確認														26														27														28																											
29																																																																																																															

※閏年 (うるうどし)

太陰暦では1年を354日としているため、適当な割合で1年を13月とする年がある。月の満ち欠けに基づき、1ヶ月を29日あるいは30日としている。

工事の工程カレンダー

「三ヶ村用水」がほぼ完成した22日には、野口村の磯兵衛の家で打ち上げが行なわれました。工事にかかわった門弟・破畑人足・村人が集まり、お酒を飲みながら「三ヶ村用水」の完成を祝いました。磯兵衛には世話代が支払われました。

荒専八と測量技術

荒専八 (至重) は、中村藩 (現在の福島県相馬地方) 出身で金次郎の弟子の一人です。

専八は、江戸で和算や測量技術を身に付け、後に測量道具の開発や測量技術書の出版を行いました。「三ヶ村用水」の工事の際には、20日のうち14日現場に立ち会い指導をしています。



↑荒専八 (至重)
『荒至重先生小伝』より



〈巻之二一〉

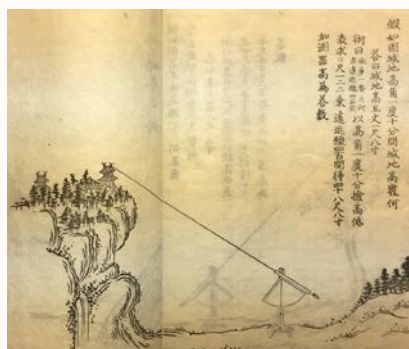


〈巻之二二〉



〈巻之二七〉

↑『量地三略』版木
(南右田神社蔵 南相馬市博物館寄託)



↑『量地三略』測量方法の図解部分



↑荒専八 (至重) 著
『量地三略』乾・坤 (当館蔵)



↑地経象限儀 (左) と地平半円儀 (右)
(南右田神社蔵 南相馬市博物館寄託)

地経象限儀は、円を四等分にした板を地面に平行において目的地までの角度を測り、そこから距離を求める道具。地平半円儀は中央の半円の傾斜角度から、斜面の角度を測る道具。



「三ヶ村用水」から板橋用水・文挾用水へ

「三ヶ村用水」ができた後

「三ヶ村用水」を流れる水は、もともと大谷川の水ですが、三ヶ村を流れて田川に合流します。田川の水が増えたことで、その下流域でも田川の水を使う板橋用水・文挾用水がつくられます。さらに「三ヶ村用水」ができたことで、日光神領の人々は金次郎らを信頼して日光神領の報徳仕法が大きく前進しました。

日光市には多くの「二宮堀」が存在しています。「三ヶ村用水」のように現在も使われている用水路がありますが、「二宮堀」がつくられて約160年経って、当時の様子がわからなくなっています。皆さんのお住まいの地域に「二宮堀」と呼ばれる用水路がありましたら、調べてみてはいかがでしょうか。



↑板橋用水

嘉永7年(1854)10月、土沢地内(土沢IC付近)の田川用水を取り入れ、板橋宿まで通水した用水普請。その後、安政期に改良普請を行い完成した。写真は板橋北の久保付近。



↑文挾用水

安政元年(1854)12月頃、板橋宿木戸際から文挾宿木戸下までの用水工事を開始。難工事のため何度も改良を加え、元治元年(1864)5月に完成した。写真は小代地内の隧道。

主な展示資料

	展示資料	所蔵者
1	今市小学校旧蔵文書	当館蔵
2	町谷渡辺家文書【町谷村名主文書】	当館蔵
3	『量地三略』乾・坤	当館蔵
4	唐鋏・測量用具(小方儀・象限儀・分度器径・分度矩)	今市報徳二宮神社蔵
5	『量地三略』版木(巻之二―一・二・七)・測量具(地経象限儀・地平半円儀)	南右田神社蔵／南相馬市博物館寄託

令和元年度テーマ展

知ってる?二宮堀～金次郎と地域の人々がつくった用水路～

発行：日光市二宮尊徳記念館

住所：栃木県日光市今市304番地1

電話：0288(25)7333／FAX：0288(25)7334

発行日：令和元年11月18日

本書を無断で転載・複製することを禁じます。

